

周南市職員による時差通勤の社会実験について

【取り組みの概要】

国道2号(周南バイパス)においては、朝夕の通勤・通学時間帯を中心に、慢性的な渋滞が発生している状況です。

渋滞緩和のための対策として、国土交通省山口河川国道事務所は、「周南立体事業」などの対策を進めていますが、完成までには時間がかかります。

そこで、少しでも早く渋滞を緩和させるための対策として、試行的に周南市が、市役所の一部の職員を対象として、時差通勤に取り組むこととしました。

まずは10月の1ヶ月間を試行期間とし、最も混雑する三田川交差点付近を通勤経路とする職員が時差通勤を試行します。

なお、この取り組みによる窓口サービスへの影響はありません。
試行後、効果を検証し、本格実施に向けての検討を行うことにしています。

『時差通勤』とは・・・

出勤時間を変更することにより、特定の時間帯に集中する交通量の分散を図り、道路が混雑しないレベルまで交通量を下げることによって、渋滞を緩和させる取り組みです。(図を参照)

【時差通勤のイメージ】

